

# 日本記者クラブ会報

## 乾坤日夜に浮かぶ

理事長 新井 明



新井 明

結果であらためてお礼申し上げます。

明けましておめでとうございませう。日本記者クラブも年々充実、発展を続けておりまして、昨年は八階に部屋を借り増して事務局を移し、会議室も増設、記者会見室も手広く使えるようになりました。またプレスセンタービルのご配慮を得て家賃の値引きも実現、まず四、五年は会費値上げもしないですむかと思えます。これも関係役員、事務局の努力の結果であらためてお礼申し上げます。

昨年十一月、私は古井喜実訪中団の一員として、約二週間にわたり訪中しましたが、途中、岳陽樓記で有名な湖南省岳陽市を訪れました。岳

陽樓に上ると洞庭湖が茫洋として広がり、昔聞く洞庭の水 今上る岳陽樓 吳楚東南に坼け 乾坤日夜に浮かぶ という唐の詩人杜甫の詩が毛沢東の自筆で掲げられ、「先憂後楽」で結ばれる岳陽樓記も飾られてありました。洞庭湖と長江を中心に繰り掛けられる魏、呉、蜀漢三国興亡の歴史も想起し、感慨深いものがありました。

ところで、今年は昨年にも増して、内外とも激動が続くと予想されます。戦後政治の総決算を掲げて、外交に、行政改革にそれなりの成果をあげた中曽根内閣も五年目にはいり、今秋の総裁任期切れを控え、幕引きの段階にはいります。米国のレーガン政権も与党の共和党が昨秋の上下両院議員選で民主党に敗れ両院とも過半数を失っただけでなく、そのあとイランとの秘密交渉、武器輸出が明るみに出て急速に権威を落としてきています。

第203号  
1987年  
1月10日発行  
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一  
日本プレスセンタービル 100  
◎ 社団法人 日本記者クラブ  
電話五〇三一二七二(代)

日本にとっては日米貿易のインバランス是正をさらに厳しく迫られることが予想され、ECを巻き込んでの自由化圧力と保護貿易の波は、円高不況に苦しむ日本をさらに揺さぶるでしょう。財政再建と税制改革、内需拡大が整合性をもって実現できるか。石炭に続く造船、鉄鋼の沈滞をどうやって切り抜けていくか。

前川レポートに方向は示されているが、具体的な政策、各論はまだ出ていない。高齢化社会への移行は容赦なく進みます。高度情報化社会の到来と高度情報化社会移行にともなう心、精神文化の調和はどうなるのか。問題は山積し、それこそ「乾坤日夜に浮かぶ」年となりましょう。ジャーナリストもまた「先憂後楽」の使命を背負っています。

年頭に当たり、会員諸氏の益々のご健勝を祈り、ご挨拶といたします。

一月一日現在の会員状況	
法人会員	一四五社
基本会員	六一五人
個人会員	一、三四六八
法人・個人賛助会員	七七社
特別賛助会員	二三三人
名誉会員	七五人
計	二二二二社、二八五八人

## 新春随想

## 国家から世界の時代へ

広岡 知男



日本がアメリカにひけを取らない経済大国になったというので、政治家も経済界も一般民衆も、すっかりいい気持ちになっているように見える。

外国から「日本も金持ちになったのだから、ケチケチしないであらう」といふ暮らしをしたらいいじゃありませんか。貯めるばかりが能じゃない。もっと気前よくカネを使ってくれないと、こちらも景気が出なくて困りますよ」と持ちあげられたり、文句をいわれたりというのも、あなたが悪い気持ちのするものではなからう。

しかし、そんなに手放しに浮かれているものだろうか。産油国が

世界中のカネを集め、飛ぶ鳥を落とすほどの羽ぶりだったのが、石油の値下がり以来すっかり鳴りをひそめ、話す声も小さくなってしまったという例もある。経済大国などといっているが、自前の資源も市場も持っていないで、経済大国になることなど所詮もともと出来ないことなのではないか。

かつて世界一の漁業を誇っていた日本が、ソ連、アメリカをはじめ世界の漁場から次第に追い出され、鯨も獲れなくされた成り行きをみても、楽観などできる筋合いではあるまい。

人間は年をとると、せっかちななり、怒りっぽくなり、心配性に

なるといわれる。私にもそういう老熟現象が出てきたのかもしれないが、男のお化粧がはやったり、スポーツ、音楽、旅行など、気楽に遊んで楽しめることはなんでも大盛況と

いうのは、いささか浮かれ過ぎではないかと、先き行き気がかりで仕方がない。

しかし、それどころではない。景気などという簡単な心配よりも、はるかに重大で深刻な問題が、私たちの周りにいっぱいあるではないか。核戦争の問題、人口の問題、資源、環境の問題。いずれも、人類が死に絶えるかどうかという恐ろしい結果につながっている問題だ。そんな大変な問題が何ひとつ解決のメドさえ立っていないのに、気楽に忘れていいものだろうか。

地球が収容しうる人口の限界について真剣に考えなければならぬ

時が来たという警告が一九七〇年、ローマ・クラブによって発せられて以来、今日まで多くの研究、会議が積み重ねられてきたが、いまだに解決の糸口さえ見いだすことが出来ないというのが実情である。この間、世界の人口は着々と増え続け、個々の国別の人口も減ったところは一つもない。特に注目されるのは、開発途上国の人口増加が目立っていることである。これらの国々は従来多産多死であったが、自身の知識水準の向上とともに、通信、情報手段、輸送力の発達によって、食糧、医療、医薬品などの援助が世界各国から寄せられるようになり、乳幼児の死亡率が減少して人口増加が目立つ傾向を生んだのである。

赤ちゃんを見殺しに出来ず、何とかして救いたいという気持ちからは、人間として尊い心情であるが、一方、人類全体が生き延びるという問題とどう調和させるかという点に、深刻な苦悩が生じる。全体の人口を抑えるという以上、何らかの抑制が必要になる。しか

し、子供を生むということは個人の問題であり、他人の容喙できぬ性質のことである。

従来多くの先進国においては、文化の程度が上がれば自然に子供を少ししか産まなくなるといふ傾向に、人口調節をまかせてきた。一部の国においては、国の必要上出産抑制の政策をとっているが、誘導、抑制がきくのはせいぜい自国の段階までで、他国にまで干渉できる性質の問題ではない。人によって、民族によって、国によって、宗教によって、考えはみな異なる。

対策は世界の話し合いによるほかないが、果たして話し合いは間に合うのだろうか。それとも、間に合わないでこの地球上に大虐殺が起こるのだろうか。

人間の生存と人間社会の成長に必要な食糧、各種の資源、エネルギー、土地、それに水、空気、緑の問題、これらも当然問題になっているが、いずれも世界全体として考える以外に対策の考えようがない。

人口問題よりもっと差し迫った心配のタネは核戦争である。核戦争の脅威はダモクレスの剣にたとえられるが、事実、シベリアから、あるいは原子力潜水艦からいつ飛んでくるかもしれぬ核ミサイルのことを考えると、夜もおちおち寝ていらぬというのが日本人の偽りのない気持ちであろう。

ただ、考えてみても仕方がないというあきらめと、まさか撃つては来ないだろうという判断で、平静が保たれ気が狂わずにすんでいるのである。しかし、国際関係が険悪になり、一触即発という事態になったらどうだろう。

戦前陸軍きつての戦略の大家といわれた石原莞爾將軍の書いた「世界最終戦論」という本がある。

彼は戦争の形態が武器の発達、社会思想の変遷などによって変化してきたことを戦史によって説明しながら、これから三十年後に世界最終戦が起こると予想している。そして、この最終戦が行われるころには、世界を何周か出来る飛行機と、一個で一都市を破壊でき

る爆弾が発明されているだろうと述べ、さらにその戦争は第一次世界大戦のような持久戦ではなく、極めて短時日のうちに勝敗の決まる短期決戦であると断定している。

彼はこの最終戦によって世界の人口は半分くらいになるかもしれぬが、永久に続く平和の時代を迎えるためには、犠牲の大きい最終戦争もやむを得ないと論じている。最終戦争を勝ち抜いた武力によって、世界平和が維持できるといふのが彼の考え方であった。

石原莞爾の予想は当たっているところも多いのだが、三十年後と考えられた最終戦は、当時から四十数年を経た今日、まだ現実には戦われていない。これは兵器の進歩が、当時突拍子もない空想と評された彼の予想をはるかに超えたからであって、今や勝利者のない戦争の時代に入ってしまったのである。

われわれは、いま人類が国家の時代を超えて世界の時代に突入したことを自覚せざるをえない。こ

の地球上に大虐殺の地獄を出現させるのを避けたいならば、また異常増殖したバッタやネズミのような悲惨な終末を避けたいならば、世界の人間は賢く話し合わなければならぬ。

ここまで書き進んできて、私の思いは突然新聞に移る。世界の話し合いは、世界の指導者や政治家によって行われるであろうが、彼らの仕事は世論の支持なくしては成し遂げられない。世界の世論を成功させるために、世界の世論をつくる。これは、新聞を中心とする報道機関によってのみ実現できることであり、これこそジャーナリストの社会に対する責任である。新聞人のOBとして、私は日本の新聞がこの壮大な任務を果たすことを期待している。

ひろおか ともお氏略歴 明治四十年兵庫県出身。東京大学法学部卒。昭和七年朝日新聞大阪本社経済部入社。論説委員(東京)、大阪本社経済部長、東京本社編集局長、西部本社代表、代表取締役専務を経て、四十二年代表取締役社長、五十二年会長、五十五年退任。五十年から五十四年まで日本新聞協会会長。現在、日本学生野球協会会長。

## ゴルバチョフ訪印

書記長訪印で感じたことを一言で言えば、インド外交のしたたかさである。訪問直前、インドのマスコミは焦点はあくまでもソ連からの経済・武器援助であり、ソ連が力点を置くアジア太平洋安保構想は、「インドを惚(ほ)れさせる

「早い機会にもう一度来てみたい」。ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長は四日間のインド公式訪問の最後の言葉をそう締めくくり、満面に笑みをたたえながら特別機の機内に消えた。滞在中終始、上機嫌だった書記長の姿を重ね合わせると、その言葉は決して外交辞令ではなかったはずである。

インド側の歓迎は盛大だった。準備のため周辺各州から三十万人以上が道路清掃、飾りつけにかり出され、書記長が通過予定の道路沿いにある貧困層集落は一夜のうちに取り払われ、中心部の街角からこじぎたちの姿も消えた。外国要人に対し歓迎を含め冷静な対処を繰り返す、インドの現実を見続けているだけに、それは異様な光景だった。

## ワーキングプレス

「早い機会にもう一度来てみたい」。ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長は四日間のインド公式訪問の最後の言葉をそう締めくくり、満面に笑みをたたえながら特別機の機内に消えた。滞在中終始、上機嫌だった書記長の姿を重ね合わせると、その言葉は決して外交辞令ではなかったはずである。

「ことは絶対出来まい」(週刊誌ウイーク)とする似通った論評を流し続けた。結果はその通りだった。巨大な借金を引き出し、計画実施に当たっての内貨部分のソ連側負担も取りつけた。軍事援助も「詳細は明らかに出来ないが、潜水艦をすでに受け取った」とシン国防担当相が書記長帰国直前の国会答弁で発言するなど、武器供与はミグ29を

## したたかなインド外交

齋藤 鑑三

含む「できるだけ早期の引き渡し」のソ連確約に沿って進んでいる模様だ。

安保構想は訪印初日の歓迎夕食会で、ガンジー首相が積極的な評価発言をしたものの、最終日の共同宣言ではソ連側が「構想の細部を説明」し、インド側が「この一貫した政策を南アジア地域協力連合(SAARC)を通じ地域レベルで検討する」と両論併記に後退

した。「構想は単なる理念に過ぎず、祖父ネールが四八年にすでに提唱している」と繰り返す同首相は十時間に及ぶ会談で、「総論」を説き続ける書記長に対し、陰悪化する印バ、印中を中心とする地域紛争をいったい構想の中にどう位置づけるか、欧州安保に関する七五年のヘルシンキ宣言と異質な地域の各論について具体的な解説を繰り返した、といわれる。評価

「説得—両論併記の一連の流れもおそらくインド側は周到なシナリオを用意していた、との見方が強い。

もちろん、閣僚、事務レベルの度重なる往復で事前協議を丹念に積み重ねて実現した書記長訪印であり、ソ連は構想に対するインド側の淡い対応を織り込み済みであろうし、何よりも五年のフルンチョフ第一書記とブルガーニン首相の訪印以来といわれる歓迎の渦の中で、ソ連は非同盟運動の旗手インドと手を携え核軍縮と宇宙兵器開発の放棄、平和諸提案をPRする絶好の場を得たので

ある。

印ソ関係に当面大きな変化はあるまい。しかし、国産化政策で疲弊しきった基幹産業の近代化のため、西側のテコ入れを急がねばならないインドの事情も存在する。

その一方で、印ソ両国間貿易はインド側の大幅出超が続く。総額も先細り傾向が続く。この実情を踏まえ、両国が今後、南アジアの安定へ向けてどうかじを取るのか—。

平和、友好、安定をうたう「祭り」が去り、ニューデリーはいつもの姿に戻った。

(さいとう かんぞう 朝日新聞社ニューデリー支局長)



国会でのスピーチでは米国の「スターウォーズ」計画を批判したゴ書記長(11月27日 写真=WWP)

## 株価フィーバー

「NTT株は本当にあがるのか」  
 「NTT株を買ったら電話代が安くなるってホント」——。NTT（日本電信電話会社）の株式の公開に向けて、昨年は一年中フィーバーした。  
 経済活動を取材する経済部記者に現場はない、といわれる。確かに社会部記者のように、コロン、タタキ、火山噴火といった現場があるわけではないが、NTT株フィーバーはいかなれば、日本中を現場にしたできごとだったといえよう。  
 世は経済の時代という。かつてのように経済が庶民ひとりひとりにとってやや遠い存在だったところに比べ、大変な変わりようだ。われわれの新聞各紙も経済欄の拡充、強化を行っている。ひと昔前までの経済部記者の悩みは、「記事が読まれないこと」というのがウソのようである。  
 経済記者、とくに私のように東京・兜町で証券界を取材している者は、冒頭で紹介したような質問をよく受けるようになった。時には深夜に電話で質問してくる友人

## ワーキングプレス

もいるほどだ。  
 NTT株ばかりではない。一般の株式についても「何を買ったらいいか」「もう天井（最高値）か」「値下がりしているが大丈夫か」といった切実な問いを何回耳にしたことか。  
 いくら証券担当記者とはいえ、銘柄の上げ下げまで予測することは不可能。そのたびに、的確な助言ができなかったのは残念だ

## 深読みされる悩みも

大野敏明

が、経済記事も「読まれない悩み」から「深読みされる悩み」に変わったといったら皮肉が過ぎるだろうか。  
 NTT株の大口向け投資家への入札説明会は九月十日、東京・大手町の日経ホールで行われた。銀行、保険などの金融機関、NTTと取り引きのあるメーカー、個人など約五百人が出席したが、会場で大蔵省の担当官から話を聞く彼

らの姿からは、「何とんでもNTT株を手に入れたい」とする熱気のようなものが感じられた。  
 個人といっても十人、二十人でグループをつくり、資金を出し合っただけつけた人もいた。  
 額面五百万円のNTT株。当初の呼び声は五十万と百万円だったが、フタを開けると落札価格の最高は二百四十万円、加重平均の落札価格は百九十七万円と予想以上の高い価格となった。  
 やはり、昨年八月までの株価の高騰の影響が色濃く反映されたのかもしれない。  
 夏ごろには、田舎の紳士風の人々が、風呂敷に現金百万円を包んで、証券会社の店頭に現れ、「これでNTT株一株頼む」といった話も聞かれた。  
 大蔵省は再三にわたって、証券界に対して「事前勧誘の禁止」をいい、日本証券業協会も申し合わせをしたにもかかわらず、大手をふくめ、各証券会社は各支店で大っぴらに勧誘、九月以降は、電話攻勢によるNTT株勧誘が続き

た。  
 ある友人の記者宅には二十通のダイレクトメールが舞い込み、宛記者クラブのボックスにまで勧誘状が届いたくらいだ。なりふりかまわぬ勧誘合戦ではあった。  
 確かに、公定歩合の四回にわたる切り下げによる超低金利時代の到来で、株式投資熱はいやが上にも高まった。今年もこの熱が冷めるとはちょっと考えにくい。証券界では、今年末には平均株価が二万四千円くらいまで上昇するだろうと予想しているほどだ。  
 しかし、十、十一月と株価は急落場面を演じた。NTT株も二月の上場時に、売り出し価格を本場に維持できるのだろうか。当たり前のことだが、株価は上がりもするが下がりもする。株価フィーバーは、常に暴落という火山を抱えていることを知らねばならない。この火山、決して休火山ではないのだから。  
 （おおの としあき サンケイ新聞社経済部）

クラブゲスト

ミゲル・デラマドリ メキシコ大統領



「メキシコを代表する、知性と教養です」と、新井理事長は紹介した。名門の国立自治大を卒業後ハーバード大へ留学、国立自治大法学部教授を経て官界へ。  
大蔵省公債局次長、石油公社副総裁、大蔵省次官を歴任した。八二年秋の債務危機直後、四十七歳で大統領に就任した。一般に、学究肌の経済通と評されるが、第一級の知性はまたなかなかのワンマンでもあるようだ。  
日本語に訳されていた二〇〇部のスピーチテキストを、到着後、ボツ

にしてしまった。が、準備されていたものよりはるかに簡潔でポイントがしぼられた即席スピーチで、その知性を披露した。産業の近代化を促進し輸出強化を狙う大統領は、「世界経済のエネルギーは環太平洋に移った」とし、そのカナメとしての日本に熱い視線を注ぐ。質問は累積債務の処理から石油価格、中米和平に及んだが、いずれも基軸のしっかりした誠実な答弁で、出席者をうならせた。

最後の質問に答えたところで、一緒に広島へ向かうため貴賓室で時間を待ち合わせしていたパロマ夫人（写真左端）が入場、理事長の紹介で万雷の拍手をあげた。【二月三日（水） 昼食会 司会 新井明理 事長 通訳 楠沼宏之 三好勝 出席 二三四人】

叶 芳和 国民経済研究協会理事長

「夏以来コメを中心に議論が活性化してきた。食管やコメ問題は研究もされないうし、議論もタブー視されてきたのだが、こういう活性化はいいことだと思う」。従来から、自由化に耐えられる日本農業を提唱し、それが可能なのだと主張してきただけに、「いいことだと思う」には実感がある。

「先進国の農業技術の進歩は急速で、日本は遅れている。とりわけもっとも保護してきた稲作で」「欧米先進国の農業は輸出前提、日本は国内消費前提、日本が特殊で、世界の常識では米精米業者の



市場開放要求は当然の行動様式」「農業団体の米価値上げ運動は時代錯誤で、自らを死地に追いやるもの」「農水省や農家内部から見直し論が出ているし、食管制度は平年作が続けば90年の声を聞かず抜本改革を迫られる」。相変わらず挑発的だ。が、要はお上

が農村のメンドウをみる必要ありとする、農家の無知を前提にした後進国型農政から、農村にもヒューマン・キャピタルありと考える、先進国型への政策転換を説くのである。①価格政策や補助金にはなく基盤整備や研究開発にカネを使い②規制緩和と政策を採用すれば、十分輸入米にも対抗できる農業になる、という主張だ。後継者問題があるので、農地規模拡大も十年くらいで急速に進む可能性があるが、政策の受け皿が間に合わねば、農地の荒廃も懸念されると指摘する。【二月五日（金） 研究会「コメをどうする（I）」 司会 広瀬一郎企画委員 出席 七四人】

武田邦太郎 武田新農政研究所長

戦前、鐘紡農林部員として、中国で大農場建設に参加、戦後、山形県の開拓地に入植し開拓農協長を務める。その後、農政研究へ。「北海道から沖縄までいろんなところで、タタミ敷きの公民館

で二〇と三〇人の若い前向きな農業者と、ふだんは話し合っているんです」。五年にして農家戸数は激減する。近い将来十分の一になる。借地農の規模拡大が進む。が、政治も行政もこれに対応できないのではないかと懸念する。「一アール以下の楽しむ農業と、生産性の高いプロ農業とに分かれる。プロ農家の耕作規模は一〇と二〇数倍になる。稲作プロは反収六〇〇と七二〇キロをとるので、いまの田んぼの半分は作付不要になる。稲作主体の時代が終わり畑作へ。「こういう方向をはらんで、現在は嵐の前、一般産業が低成長に入中、農業は高度成長期へ」。

合理的な国土計画の下で、農地の基盤整備をし、それを三〇年とか四〇年転用させないことが大事とする。「おカネもある。土地もある。人間も勤勉である。ないのは政策です」と、農業者の創意工夫をいかす自由主義農政を主張する。「集落ごとの協調体制では指導者だけ苦労して結局うまくいかない。しかし、個々にやらせればうまくいく。体験的自由主義論者だ」。



【二月八日（月） 研究会「コメをどうする（II）」 司会 広瀬一郎企画委員 出席 七二人】

クラブゲスト



F・H・ムルコフスキー米上院議員  
アラスカ州選出、上院外交委員  
東アジア・太平洋問題小委員長  
で、共和党国際通商問題作業部会長を務める。

成田から大阪へ直行、日曜日荒れた海へ出て、関西新空港の建設予定地を見てきた。「このプロジェクトは、米企業の参加が閉ざされているというを示す象徴になっている」。貿易インバランスの推移、日米交渉の経緯、予定される日本の巨大公共プロジェクトなどを整理した大きなパネルを、何枚も持参しての会見となった。

ダメな場合の対抗措置として、バイアメリカン条項にも言及し、不満も述べたが、疲労のせいなのか、懇請調のトーンもかなり。【二月二日(水) 記者会見 司会 久木保企画委員 通訳 豊田美都子 出席 六五人】

桜井 新 衆議院議員

新潟三区選出。「大蔵、農水省ではA級戦犯かつベトナムもかなわぬアパッチと呼ばれている」と自己紹介。農家と農村の現実を報告し、「経済合理主義だけで日本を考える



小島正興 経団連農政問題懇談会米部会長  
研究会「コメをどうする」(Ⅲ) 司会 石丸和人企画委員 出席 五二人

なら、政治はいらない」と。嫁もこず、日雇いや出稼ぎでつじつまを合わせている適応能力の期待しづらい農民を、大企業や就労機会にめぐまれた都会人が、そんなになぶる権利があるのか、と訴える。四〇年培ってきたものは一挙には変えられない。「まず農村に雇用の場をつくるべきだ」「職さえあれば離農者が増え集約化が進み、理想的な農業経営に近づく」。【二月一日(木) 研究会「コメをどうする」(Ⅲ) 司会 石丸和人企画委員 出席 五二人】

小島正興 経団連農政問題懇談会米部会長

まず当日の朝刊で報じられた日経連提言の「食糧制度見直し——コメ完全自由化」について。「内需拡大の話を記者諸公がああいうふうに書いたのかもしれないが、なにを血まよったことをいうのか分からない」。



実態を知らない評者の話が多く、新聞の扱いても国民を惑わすもの。ことはそれほど単純でない。農民をステープゴートにしている感がある。役所も全中もずい

分変わってきているのに、あんまり雑音を入れると、またカラに閉じこめかねない、と言う。【二月二日(金) 研究会「コメをどうする」(Ⅳ) 司会 武藤慧企画委員 出席 五一人】

石川 弘 農水省事務次官



九〇キロの巨体で、過剰、減反、自由化要求などコメに悩む。が、さすがに情報量も多く専門家。これまでの経緯や現状をつぶさに説明。政治

一農民、マスメディア—消費者、それ以外圧が入りまじった嵐の中で、農産物貿易のあり方など中・長期的展望も忘れず、地に足のついた稲作農業の生産構造改革を誠実に語る。現行制度でもいろいろ行われていることは分かる。が、その説明で、外国に通用するかどうかは別問題。「食糧の歴史を通じて言えることは自由な流通のよさとこわさ。裸にさえすればよくなると言えらるほど、私は楽観的でない」「コメをめぐる異様な状況の中で、生産量を下げ生産性をあげる構造改革を、農民にやってもらわねばならないので、それに動揺を与える施策は考えられない」。【二月一六日(火) 研究会「コメをどうする」(Ⅴ) 司会 広瀬一郎企画委員 出席 五九人】

倉成 正 外相

欧州で「アルコール飲料」でせめられてきた外相を気づかっていたか、アラスカがこの日出したワインはフランス産。外相はサービスマンに「デパートでいくらするの」と確認していた。

七月に就任後、満を持してのクラブ初登場。閉鎖回路テレビを使い、6階のFPCで行った英語サービスマンの方にも約二〇人の外人記者が出席した。

「的確な情報が不足し派手な外交をやったとき、日本は失敗しています」と、堅実で誠実な外交を説く。「資源小国・防衛弱国はどんな小さな声にも謙虚に耳を傾け、世界から孤立してはいけません」。一月に太平洋諸国を訪問するが、ミニ国家重視が倉成外交の目玉なのかも。この日の昼食会は前出のワインに始まり、メインディッシュがノルウェー産のサーモン、デザートはカリフォルニア・オレンジと、ちょっとした貿易摩擦対策メニュー。【二月二日(月) 昼食会 司会 藤村邦苗企画委員長 出席 一一八人】



# スタジオ訪問

NHK

〔首都圏〕

## 都会の断面 あぶり出す

一、〇〇〇分Ⅱ約十七時間。三十分の番組が、取材のためにVTRをまわす時間の長さだ。毎回、平均五十本のビデオテープを使用する。

「これの編集作業が一番大変なんです。五日間はそれにかかります」と、チーフプロデューサーの場崎孝さん。NHKの『首都圏』（金曜夜十時）は一都六県を対象にした、硬派の生活情報番組だ。スタッフは七人と意外と少ない。全員が顔をそろえることはまずない。いつもだれかが事前取材やVTR取材で、外に出ているからだ。

首都圏の問題に的をしぼり、わかりやすく追跡、検証する。テレビメディアの調査報道の試みのひとつとして、評価する声もある。最近とりあげたテーマは次のようなものだ。「追跡 抵当証券適法財テイクム時代の裏側」「安売りルー

ト攻防戦 秋葉原で今何が「土地新事情 今郊外で何が起きているのか」など。

社会現象の一断面を克明にあぶり出し、時間の経過の中で見落とされがちな問題を掘り起こし、問いかける。現場を取材した記者が、キャスターの山田茂デスクに報告する対話形式を基本に、VTRや図表を使用して問題を説明していく。そこには「イマ風」の演出は全くない。

説明材料や資料などもコンピューターを使ったものでなく、白板や簡単なパネルだけだ。

「首都圏で暮らす人が、ニュースの中心あるいはその周辺で、どんなことを考えどんなふうに行動しているのかを見つめ直したい。それによって、視聴者が都会の中の自分を掘り起こすための参考になる、そんな番組があってもいいと思いました」。場崎さんは『首都圏』への期待と狙いを、そんなふうにして語った。「世の中が複雑、多様化しているのだから、制作側の信念のようなものだけで番組をつくっても、本質が見えなくなってきたような気がします。当事者や関係者の生の声にどれだけ近づけるかがポイントです。本当に言いたいことを言ってもらって、VTRをまわしている」と、どうしても長くなるんですね。

十二月五日（金）午後二時。編集済みのVTRに、記者レポートをドッキングさせる、いわゆる「音入れ」が行われていた。番組はまず「画」が先行する形で制作される。映像だけで一応わかるものをつくり、その後、記者レポートや山田デスクの解説などを挿入していく。

この日のテーマは「落札価格はこうして決まった 六本木一丁目の攻防」だった。都心の異状な地価急騰の中で注目された、国有地（林野庁宿舎跡）の売却問題を取りあげ、入札決定までを追ったものだ。高く売りたい林野庁、狂奔地価で正常なコミュニケーション崩壊の危機に脅かされはじめた港区や地元住民の立場、カネ余りの中でのディベロッパーの動き等を、多角的に追跡した。

「すでに報道されているものの中に、追跡すべきものがあるわけです」と山田さんは言うが、実はむしろかしいのは「ネタ探し」なのだ。

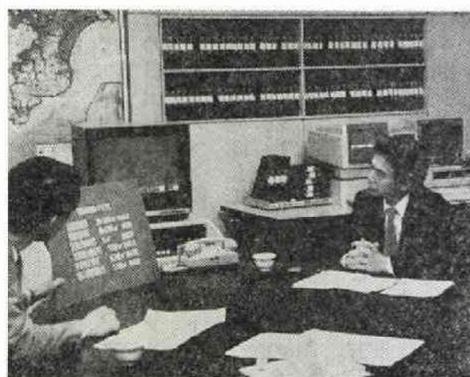
テレビだから、当事者に実際に登場してもらわないことにはじまらない。が、狙いをつけて取材に行っても、結局オジャンになることも多いという。その上、登場する人物には、ことのほか注意を払う必要がある。「へたをすれば、宣伝や売名に悪用されかねません」。ひとつのテーマで、異なる立場や利害の対立する人たちを追うことが多いだけに、

「人」の選択は番組の成否を握るだけでなく、もっとも慎重を要する。「今日登場した地元中堅の不動産会社社長も、実をいうと最初は用心しましたね。その会社の実態や彼個人について、納得できるまで調べました」。

毎回、放送が終了すると電話が鳴り出すが、土地、住宅、税金を扱うと特に反響が大きい。「みんな身につまされるんですね」と山田さんは言う。

「ハッピートーク」ニュース主流で、親しみやすさを重視した報道番組が多い中で、『首都圏』はあいそ笑いのない番組だ。

「これからもオモテもウラもかけひきも分かる、視聴者の「なぜだ」に答えられるような番組をつくっていききたい」と、場崎さんも山田さんも話してくれました。



「国が地価の高騰に拍車をかける。先日行われた六本木一丁目の……」。番組は山田デスク（右）の言葉で始まった。

（長谷川和子）

# 会 合 紹 介

1日▽ワシントン・ポトマック会一元ワシントン特派員の家族会(中日 林茂雄 会員)▽対談 星野仙一と倍賞美津子

(時事 山田桂三) 2日▽帝人役員一織維記者クラブ懇談会(帝人 武笠秀昭 会員)▽JNN系列編成連絡会(TBS 北代淳二会員)▽元旦号対談「四全総と富山県」綿貫民輔国土庁長官と中沖豊富 山県知事(北国 池田稷会員) 3日▽

## プロフィール

(十二月一日付入会の方がたです)

民放解説研究会一民放各社の解説委員の勉強会 ゲスト 山口徹全中専務理事(毎日放 小巻元隆会員)▽ウォルター・ベラン氏勲三等受章記者会見(日経 末次克彦会員) 4日▽東京新聞旧友会(新員博会員)▽東友会一北海道新聞OB会(道新 池上忠行会員)▽文集「とき」出版記念パーティー(海野修太郎会員) 5日▽社会部OB会(共同 村岡博人会員) 6日▽時事OBクラブ総会(時事 佐藤達郎会員)▽サンケイOB会(サンケイ 五十畑隆会員)▽第13回ふるさと東京まつり写真コンクール表彰式(東タイ 徳間康快会員) 8日▽エッセイストクラブ忘年会(殿木圭一会員)▽EC・論説委員懇談会(岸上慎太郎会員) 10日▽座談会「国際社会の中の地方」天野直弘元通産審議官、八木熊吉福井商工会議所会頭他(福井 橋詰武宏会員)▽ブライアン・パーク西オーストラリア州首相記者会見(豪州大使館 武田吉朗会員)▽新年企画「ニューリーダーにさく」(日経 山岸一平会員) 12日▽民放合同忘年懇親会(テレビ朝日 田中等会員)▽'87リコージャパンボウル記者発表(スポニチ 石井経夫会員) 15日▽画集「小川芋銭」編集会議(日経 広田耕司会員) 18日▽保利会一故保利茂氏を偲ぶジャーナリストの集い(時事 志村文三会員) 19日▽ユニセフ40周年記念国際親善サッ

カー大会記者発表(デビッド・エクセレイ 会員) 22日▽明日を見つめる日中懇談会(日経 新井明会員)▽東京写真記者協会賞授賞式一協会賞・毎日「車イスの田中元首相」(共同 柳沢良純会員) [会員がクラブ施設を利用して行った主な会合] [二十一年十二月の総回数は一〇七回でした。]

### 会員の著書(ご恵贈いただきました)

円の百年 日本経済測面史 刀祿館正久  
アメリカ犯罪株式会社 小関哲哉訳  
インタナショナル・マネジャー  
黒木壽時訳  
ころばぬ先の経済常識 今 静行  
テロの時代 坂井定雄

### 寄 贈 書

日本新聞協会四十年史 日本新聞協会

### クラブ訪問者

12・10 朴 鉉  
兌韓国プレス  
センター理事長、奇宇卓同渉外部長

### ゲスト・カード

ステイブ・ア  
スデザイン(グ  
ローバル・プレス・レビユー ワシント  
ン・ナショナルプレスクラブ会員)

訃報 北村昭一会員(グレイ大広)が十二月十五日胸部ガンのため、岡本利男会員(時事通信社)が同二十二日呼吸不全のため逝去されました。謹んで両会員のご冥福をお祈りいたします。



▼「国連平和の年」にちなんで二十字までの平和のモットーを募集しています。当選者一名にオーストラリアまでの往復旅費と三か月の宿泊代および英語コースの受講が与えられます。

送り先は東京都中央区銀座五―十二  
一―リクルートインターナショナル  
内、平和の年、モットー係。官製はがきに住所、氏名、年令、職業、電話番号を付記。

当選発表は三月一日。日本国連協会、オーストラリア国連協会共催。

(坂本 宏)

▼新年を期して勤務先の社名が「株式会社市況情報センター」から「株式会社

第33回施設運営委員会

(12・4 レストラン)

出席 犬養委員長。根津、和田、宮地、山崎、黒木の各委員。

第140回企画委員会 (12・8 大会議室)

「昭和62年予想アンケート」の問題十問を作成した。なお「61年予想アンケート」設問中「マル優」については、出題意図が「郵貯の扱い」にあったので、

社QUICKに変わりました。オンライン・リアルタイムの株価情報サービス会社からスタートして十五年たち、最近はその他の金融情報や日経ニュースが飛躍的に充実するなど、業務内容が顕著に変化し、名が体を表さなくなつて来たためです。それにしても高度情報社会の広がり、金融革命の進展は驚くばかりです。

(大澤紀夫)

▼「北京周报」の編集を手伝うため、二年間北京で暮らすことになりました。妻も一緒です。

向こうでは、クラブの会員でもある立花丈平さんと一緒に仕事をします。中国をこの目でジックリ見たいと思つています。

(中俣富三郎)

「全廃」を正解とすることにした。

出席 藤村委員長。浅井、阿部、山岸、友田、広瀬、井上、有賀、石丸、高野、久木、白井、武藤、鈴木、河野、有馬、木村、中川、三宅、村野、ヒルシャの各委員。

第112回会員資格委員会

(12・12 第2会議室)

出席 渡辺委員長。中川、加藤、樋口、楚邑の各委員。

大軒杯争奪囲碁大会

吉沢会員が優勝

暮れの十二月二十日は第五回大軒杯争奪囲碁大会。初参加三人を含めて三十五人、クラブ保有の盤石十四面すべてを使つても常時七人はあふれる始末で、空前のにぎわいとなった。

A組(五段以上十人)、B組(四段七人)、C組(三―二段十人)、D組(初段以下八人)の各組で各人三局を対局して決勝進出の四人を決めた。勝ち名乗り一番手はD組の細金初段、ついでA組吉沢六段、B組浅野四段までは順調に決まったが、C組は最終局がらみとなって遅れってしまった。そのため決勝トーナメン



大軒杯目指しての予戦対局

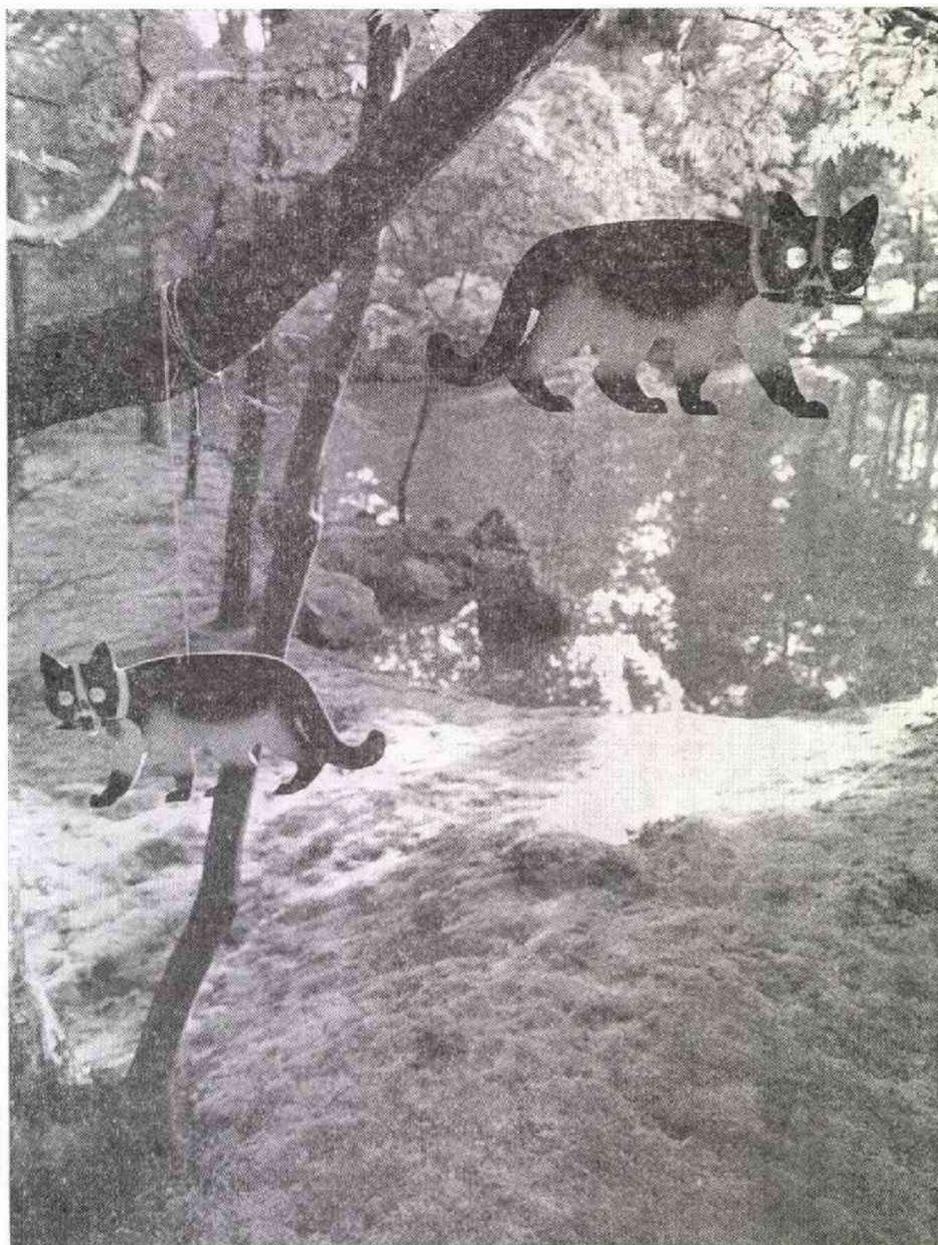
ト、第一戦の浅野―細金戦で浅野四段が決勝進出を決めてから相手を持つこと一時間十分。待ちくたびれたか、浅野氏は、一方の吉沢六段―馬淵二段の勝者吉沢氏との決勝対局では序盤から戦意喪失の態で、わずか二十分で投了してしまった。

それにしても二年半にわたる「誤診による闘病」から解放されたとはいえ、吉沢氏はおん年七十三歳で囲碁同好会の最長老。石を叩きつけるが如き闘志はますます盛んで、「碁の質が違ふよ」とは周りのかけ値なしの評価といえよう。

吉沢六段にはクリスタル製大軒杯とギフト券、副賞として新井会長寄贈の木箱入りオールドリザーブ半打が贈られた。

一方、小山嘉代準棋士による指導碁もあい間をぬって六局が消化された。五段二人、四段四人がすべて手合い割四子の二面打ちで果敢に挑戦したが、二勝四敗の戦績。金星は堀川五段とプロキラーとして高名な大日向四段のお二人だった。この日は指導対局も含めて公式戦が六十一局、オープン戦を含めるとゆうに八十局を超えるこれまた空前の絶対局数となった。

新年第一回の例会は一月三十一日(土)午後一時から。昨年は新会員が年間で十人増え、一月一日現在の会員数はちょうど六十人。気軽に顔を出せる碁会ですの初めての方もぜひどうぞ。



# 写真部

観光客に苔を踏み荒らされた京都・西芳寺は、九年前から一人三千円での予約  
拝観制としたが、今度は野鳥の糞糞にみまわれ、「張り子の猫」の登場だ。

写真 安原

稔 (読売新聞大阪本社写真部)

## 文化というもの

地面を覆う植物の代表格は芝とコケだが、陰影の豊かさと繊細な味わいで杉ゴケが随一である。目を近づけて見ていると、杉ゴケは大気中の水分を呼吸しながら刻々と表情を変えてくるさまがよくわかる。

かつて東宮御所に杉ゴケを生やそうと、京都から庭師が呼ばれたことがある。関東の乾いた空っ風ではどうしてもうまくいかなかった。苔寺は嵐山の山影にあって、湿った大気と半日影の場所である。

ただし、水っ気があるというだけで天下の名園はできない。毎日コケの顔色を見ながら人為的に水分をコントロールする。微妙この上ない気配りを要する。

きのうまでいい顔をしていたのに一夜のうちにガタッと生気をなくしてしまふ。ひとたび損傷を受けると回復は容易でない。一日の手抜きも許されない。そうした心映えを自然に伝える作業の積み重ねが、文化というものである。

およそ文化とは無縁の、乾いた心の輩が観光バスで乾いた国からやってきて、杉ゴケの名園を壊した。

(林 芳典)

昭和62年度「日本記者クラブ賞」の

候補者をご推薦願います

◇取材、報道、評論活動などを通じて、ジャーナリストとして顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を、一月三十一日までに候補としてご推薦ください。

◇「選考基準」は左記の通りです。

- (1) 現役ジャーナリスト個人に与えられる賞である。(現役という意味は現に活動しているということ、故人を対象としない)
- (2) 活動が長期にわたるといふ意味での「敬老賞」でもなく、日の当たらない困難なところで活動しているという意味での「風雪賞」でもない。
- (3) スクーパ賞ではなく、特に最近数年間の業績が顕著であることが重視される。
- (4) その存在および業績が、ジャーナリズムの活性化と成熟に、インパクトを与えるような個人を顕彰する。

◇会員およびプレス会員社に属する方々が候補有資格者です。

◇推薦者は、所定用紙に候補の氏名、略歴等を入力し、四百字づつ原稿用紙五枚以内に推薦理由をまとめ、参考資料を添えて事務局へ提出願います。

◇ご不明の点は、事務局(五〇三)二七二二へお問い合わせください。

喫茶券をご利用ください

コーヒー、紅茶、コーラ、オレンジジュース、ジンジャーエール専用の「喫茶券」の発行を始めました。一冊二十枚つづりで二、四〇〇円です。もちろん、会員ご本人しか使用できません。クラブバーのレジで販売しておりますので、ご利用ください。

十一月の施設運営委員会で「二〇〇円のコーヒー杯にいちいち伝票を書くのはどうだろうか」ということで、発行を決めたものです。これでおつりの小銭でポケットの中がジャラジャラすることもなくなり、オードナーのときにチケットをいただきますので、支払いのためにお客を待たせる必要もなくなります。

「福引」で運だめしを——新年互礼会

恒例の新年互礼会懇親会が、一月二十二日(木)午後六時から十階のプレスセンターホールで開催されます。

席上「昭和61年予想アンケート」の結果発表と表彰、「昭和62年予想アンケート」の投票が行われます。また、例年好評の空クジなしの「福引」も行われます。事務局には昨年来からすでに各社からすばらしい景品がどんどん届けられています。会費は三、〇〇〇円です。多数ご出席ください。

事務局に新職員 昨年七月からアルバイトとして勤務中の菊池新吾(二一歳)が、一日付で正式職員(フロア・マネジャー)となりました。これに伴い、小橋敏文が経理担当に、村上真樹子がフロア担当に変わりました。従来同様のご指導をお願いいたします。

訂正 クラブ会報十二月号「とっておきの話」中、元駐米大使武内龍二氏は武内龍次氏の誤まりでした。おわびして訂正いたします。

一月の行事 (12月26日現在)

- 13日(火) 午後3時～4時30分 研究会「87経済見通し」(Ⅲ) 林健二郎野村総研取締役
- 14日(水) 午後3時～4時30分 研究会「87経済見通し」(Ⅳ) 松川道哉日興証券顧問
- 16日(金) 正午～午後2時 竹下登自民党幹事長 昼食会
- 19日(月) 午後4時～5時30分 研究会「87経済見通し」(Ⅴ) 原田和明三和総研専務取締役
- 22日(木) 午後6時～8時 新年互礼会懇親会
- 26日(月) 正午～午後2時 斎藤英四郎経団連会長 昼食会
- 〃 午後3時～4時30分 研究会「87経済見通し」(Ⅵ) 宮崎勇大和証券経済研究 所理事長

新年あけましておめでとーございませう

事務局一同

会報委員長 深川 誠

委員 林 利隆 井出新六 斎藤吉史 安延久夫  
連絡 長谷川 河野(事務局) 五〇三—二七二二